

【展覧会】

“知覚”をテーマに、近江八幡旧市街地6会場で開催する芸術祭 「ちかくのたび」

ボーダレス・エリア近江八幡芸術祭



近くに在る知覚、町とアートと旅に出る

会場から会場へと、町とアートを巡る本展は、私たちの中にある一様でない「知覚」を巡る旅でもあります。「あふれる音」、「手で観る世界」、「アーティストの小宇宙」、「気配をつかまえる」、「とある国のお話」、「みんながつくる」、6つのテーマからなるそれぞれの会場では、多彩な表現が私たちの知覚を刺激してくれます。

ゆるりと町を巡り、アートとつながる。あなたの五感は刺激され、思いもよらぬ出会いが訪れるかもしれません。みなさま、良い「ちかくのたび」をお楽しみください。

会期：

2019年9月21日(土)～11月24日(日)

場所：

**ボーダレス・アートミュージアム NO-MA
他周辺5会場**

【見どころ】

- 鑑賞ガイドや音声、触覚的なコンテンツを使い、障害の有無に関わらず、様々な人たちが安心して楽しんでいただける展示
- 出展作家の平野智久さんが近江八幡を探訪された体験を基に、今展で新作発表
- 障害のある人と作品を体感する鑑賞会など、誰もが共に楽しめるイベントを多数開催
- 近隣の町中に地域の方から協賛いただいた、みんなの憩いの場「ぼったり床几」設置
- 人・まち・アートをつないで、一緒に作りあげるサポーターの活動

【問い合わせ / 掲載用写真貸出・取材】

社会福祉法人グロー 法人本部企画事業部（ボーダレス・アートミュージアムNO-MA）
 担当：山田・山口 〒521-1311 滋賀県近江八幡市安土町下豊浦 4837 番地の2
 TEL：0748-46-8100 FAX：0748-46-8228 MAIL：kikaku@glow.or.jp

展覧会概要

- タイトル “ボーダレス・エリア近江八幡”をみんなで作るプロジェクト
ボーダレス・エリア近江八幡芸術祭「ちかくのたび」
- 会 期 2019年9月21日(土)～11月24日(日)
- 会 場 ボーダレス・アートミュージアムNO-MA (滋賀県近江八幡市永原町上16)
他周辺5会場
- 開催時間 11:00～17:00
- 休 館 日 月曜日(祝日の場合は翌日)
- 観 覧 料 全館共通パスポート一般1,000円(900円) 高大生900円(800円)
一館チケット300円(展望館は無料)
※中学生以下無料、障害のある方と付添者1名無料
※()内は20名以上の団体料金
- 主 催 アール・ブリュット魅力発信事業実行委員会
[構成団体]ボーダレス・アートミュージアムNO-MA(社会福祉法人グロー[GLOW])、
滋賀県、滋賀県立近代美術館、近江八幡市、一般社団法人近江八幡観光物産協会、
国立大学法人滋賀大学、NPO法人はれたりくもったり、
滋賀県施設・学校合同企画展実行委員会
- 後 援 滋賀県教育委員会、近江八幡市教育委員会
- 協 力 尾賀商店、沖島町離島振興推進協議会、ギャラリーバーン、NPO法人しが盲ろう者友の会、滋
賀県発達障害者支援センター、社会福祉法人しがらき会信楽青年寮、社会福祉法人しみんふく
し滋賀、社会福祉法人創樹会、ニットキャップシアター、八幡山ロープウエー、公益財団法人
びわこ芸術文化財団、まちづくり会社まっせ、まちや倶楽部、社会福祉法人やまなみ会 やま
なみ工房、NPO法人クラフト工房La Mano
- 助 成 平成31年度文化庁 地域と共働した博物館創造活動事業

——事前取材会のお知らせ——

本芸術祭の開催に先立ち、事前取材会を行います。NO-MA、奥村家住宅、尾賀商店の3会場を巡り、展示の内容や取り組みについて担当学芸員から説明いたします。

日時：9月20日(金)

時間：13:00～15:00

集合：ボーダレス・アートミュージアムNO-MA

※内覧会に参加される方は、事前のご連絡にご協力ください。

“ボーダレス・エリア近江八幡”をみんなで作るプロジェクトについて

NO-MAがある近江八幡を拠点に、誰もが境界なく有機的に交流できる場を形成するための取り組みです。アートを鑑賞することや創作することの楽しさを地域の方々などと共有することを通じて、誰もが芸術文化に触れることのできる環境を作り、地域全体をつなげることを目的としています。

展覧会をより楽しくする取り組み

ばったり床几プロジェクト

地域企業等の協賛により、会場近隣の町中にみんなの憩いの場「ばったり床几」を設置します。

かつては家先に売り物を並べていた床几を再現し、いろんな人たちの交流の場としてお楽しみいただきます。



一緒に展覧会を作りあげるサポーターたち

「ちかくのたび」では、地域の方や学生など様々な人々にサポーターとなって参加していただいています。

活動は以下の3種類。サポーターたちとの交流も、本芸術祭の魅力です。

日々の会場運営に携わり、来場者と作品を繋ぐ
自らが記者となって作品や町の魅力を伝える
出展者や構成を考え、ともに展覧会をつくる

会場ボランティア
NO-MA記者クラブ
キュレーションサポーター

6つの会場と出展者（広報画像用）

■ボーダレス・アートミュージアムNO-MA

（近江八幡市永原町上 16）

テーマ：あふれる音

音がきっかけとなって展開する情景に思いを馳せます。



ごまのはえ × 芝田貴子 Gomanohae × Shibata Takako 1977- / 大阪府、1973- / 滋賀県

1999年、劇団「ニットキャップシアター」を旗揚げしたごまのはえは、芝居や語り、ダンスなど、様々な舞台表現と「言葉」を巧みに組み合わせた、イマジネーションあふれる作品を生み出している。2018年には、草薙陵太による絵から着想を得て、ショートストーリー《ちょうどその頃、》を脚本。視覚障害者が抽象的な絵の世界にアクセスすることにつながる新たな試みとして注目を集めた。

また、芝田が画題とするのは自身の「お母さん」である。青いスーツに、茶色い髪の毛、大きなイヤリングを身に着けた決まったスタイルで描かれる。10年以上にわたり、芝田はこの姿の母を、サイズを変えて何枚も描いている。

本展では、芝田の作品に着想を受けたごまのはえの生み出すストーリーのコラボレーション展示を行う。



① 「お母さん」 2015

酒井美穂子 Sakai Mihoko 1979- / 滋賀県

酒井は日々、「サッポロ一番醤油ラーメン」のパッケージを一定のペースで擦り続けている。周りには、くしゃくしゃ……という小さな音が鳴り続けている。酒井はこの行為を、歩いている時、食事中、ときにはお風呂の中でさえ、続けているという。施設に出發するタイミングで、母親が袋麺を取り替えるので、土日を除く、1日に一つのペースで袋麺は更新されていく。袋はストックされており、その数は1,000を超える。



② 「サッポロ一番しょうゆ味」 1995-

脇原大輔 × DENKITOMBO Wakihara Daisuke X DENKITOMBO 1982- / 2012 結成 / 京都府

インタラクティブな映像・音響演出、プログラミングやオリジナルのデバイスを用いたインスタレーションなど、様々な技術を組み合わせた作品を制作。空間や体験などの相互作用の可能性、そしてそこから生まれてくるものを探っている。本展では、環境や空間を利用したインスタレーションや新たなコミュニケーションツールなどを発表する電気蜻蛉との共同により、視覚と聴覚で風景を覗き聞く装置を構想予定。



③ 「五個荘影」 SCP2012

■奥村家住宅（近江八幡市永原町上 8）、岡田家（近江八幡市博労町上 7）
 テーマ：手で観る世界

触覚で掴む、カタチ。指先や手のひらで作品を観てみましょう。



小原二三夫 Obara Fumio 1952-／大阪府 ※奥村家住宅

小さいころからほとんど目が見えなかった小原は、現在、点字翻訳の校正などの仕事をしながら、木彫りの制作を行っている。制作は2014年初めから、木彫家の栗山賀行の進めにより行われることになった。手触りの記憶を頼りに、イメージを想像し、木を彫って形を作っていく。制作される主題は、動物や人物、または「破裂しそうなドラム缶」といった運動を予期させるものや、心情を表すものにまで及んでいる。



④ 「飛行機」 2018

久保寛子 Kubo Hiroko 1987-／広島県 ※岡田家

4m程の大きさの手のオブジェ。久保は、先史芸術や民族芸術、文化人類学の学説を主なインスピレーションの源とし、近年は生活に身近な素材を用いて農耕や偶像をテーマに作品制作を行っている。古くからある文化に、現代で使われている素材、道具、暮らしを再構成して、新たな形として息を吹き込む。



⑤ 「やさしい手」 2018

佐々木卓也 Sasaki Takuya 1975-／東京都 ※奥村家住宅

佐々木による女性のシリーズでは、折り曲げた左手でまっすぐに伸ばした右ひじの内側に触れる、もしくは、右ひじに唇を当てる特徴的なポーズをとっている。ある時は、アクリル絵の具でキャンヴァスいっぱいに描かれ、ある時は粘土の塊から指で削り出し、アクリル絵の具や油絵の具で鮮やかに彩色される。母親は、「小さい頃は自分でもよくそうしていたから、その部分は心の安らぐ大切な場所」だと話す。プラモデルやおもちゃを貼り付け女性を表現したコラージュ作品もあり、その表現方法は多彩だ。



⑥ 「外国の女性(ゆみかちゃん)」 2001

米田 文 Yoneda Bun 1975-／石川県 ※奥村家住宅

動物や植物などを題材に、思わず手に取って見入ってしまうようなユニークな作風で活躍する米田。《うずまきさん》は、1998年頃から約3年という短い期間だけ作り続けた作品群である。作品を構成する小さな「うず」は、まるで無限に増えてくようで、かつ引っ付きあい、一つの大きな形を成している。



⑦ 「うずまきさん」 2001

■まちや倶楽部（近江八幡市多賀町 738-2）**テーマ：ミクロコスモス**

作品の細部に宿った、アーティストの小宇宙に触れます。

**辻 智彦×橋高博枝、五則野わらじ、清野ミナ****Tsuji Tomohiko×Kittaka Hiroe, Gosokuno Waraji, Seino Mina****1970-／和歌山県、1933-／広島県、1979-／長崎県、1986-／栃木県**

撮影監督であり、株式会社ハイクロス・シネマトグラフィの代表を務める辻は、劇場映画、テレビ番組において多くの映像作品を手掛けている。2018年には、超高精細な4Kカメラを使い、アール・ブリュットの作品のディテールに深く迫る映像作品を公開。

橋高は、筆やサインペンを使って、文字とも記号ともつかない不思議な抽象的形象描き連ねていく。近年は、「亡」という漢字や「チェックマーク」に類似したいくつかの要素を中心に、非常にゆったりとした速度で創作を進めたり進めている。(⑧)



⑧ 「無題」 制作年不詳

五則野モノクロで描かれた緻密な作品を多く制作する。特に決まったモチーフがあり描いているのではなく、ニュートラルな思考のもと、ペンが走るままに描き、しだいに形作られていくようだ。(⑨)



⑨ 「時の取れ方」 2010

縦、横、斜めに伸びる線、間を埋め尽くす幾何学模様、そしてカラフルな色彩。それらの構成要素を使って、鳥の目から街を俯瞰するような、彼女の心の中にある地図を作り出す。(⑩)

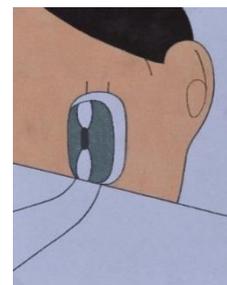


⑩ 「カラフルメイト」 2009

平野智之 Hirano Tomoyuki 1987-／東京都

「美保さん」「もえ子さん」のシリーズは、実在する人物をモデルにした物語である。「字幕」と呼ばれる気の利いたテキスト、シンプルな線、大胆な構図で構成された作品は、独自のリズムがあり面白い。また、平野は靴を「土足（どそく）」と呼び、特に強いこだわりを持って描く。初期作品は、下半身しか登場しないこともあり、足元のクローズアップをはじめ、靴が乗り物に変化するなど、様々な展開をみせる。

今回、本展に合わせて制作された新作を発表。「美保さん」が近江八幡を舞台に物語を繰り広げます。



⑪ 「New 美保さんシリーズⅧ」 2018

「ちかくのたび」公式ガイドキャラクター 美保さん

平野智之さんが描く「美保さん」が、本芸術祭のガイドキャラクターに任命されました。美保さんは、各会場に現れて作品や建物の情報を教えてくれたり、来場されるみんなを楽しませるために大忙しです。

美保さん、来場者の方々のアテンド、よろしくお願いしますヨ。



■尾賀商店（近江八幡市永原町中 12）**テーマ：みんながつくる**

“ボーダレス・エリア近江八幡”をみんなで作るプロジェクトに参画する、キュレーションサポーターによる成果展示です。

※キュレーションサポーターとは、展示に関するスキルや作品のことを学び、展覧会をともにつくるサポーターです。

■寺本邸（近江八幡市多賀町 738）**テーマ：気配をつかまえる**

説明できない「なにか」。作品と場に潜む、気配をしっとり味わいます。

**谷澤紗和子×藤野可織 Tanizawa Sawako×Fujino Kaori 1982-／1980-／京都府**

アーティストの谷澤紗和子が制作した人形のような陶のオブジェに、小説家の藤野可織が短編小説を書き下ろしたコラボレーション。子供の粘土遊びのような造形に、目・鼻・口を表わす虚ろな窪みをつけられたオブジェたち。ユーモラスなのか不気味なのか分からない表情で佇む彼らに、1ページずつ文章が添えられ、物語が展開していく。



⑫ 「無名」 2015 写真：賀集東悟

藤岡祐機 Fujioka Yuki 1993-／熊本県

細い糸のような繊細な表情は、紙を切るというシンプルな行為によって形作られる。最初にハサミで紙を長方形に切り、それをさらに1mmにも満たない間隔で切っていく。その際、技巧的な手さばきによって、細い糸がスパイラル状になり、立体感が生まれる。切り終わった後は、紙を1cmほど手で破る。それらが意味するところは本人にしか分からないが、両親によると作品が完成したサインではないかという。



⑬ 「無題」 2019

■展望館（八幡山山頂）

テーマ：とある国のお話

町を一望たする景色とファンタジックな世界に浸るひととき。



瀬尾ひろみ Seo Hiromi 1959-2010／長野県

瀬尾は、色鮮やかな背景と人物の描写によって、ある物語を想起させる作品を数多く制作した。材料は、紙と蛍光色を中心とした細めの水性ペン。この水性ペンで背景を塗りつぶすのだが、その余白は様々な形に分割され、各々の形の中で、筆触の方向が変えられる。それが、画面全体にプリズム状の効果をもたらす。



⑭ 「どうぶつえん」 2009

藤田マサヒロ×seo Fujita Masahiro X seo 1963-／1964-2015／滋賀県

藤田は、社会や人体の表層を剥ぐような表現を通して、3次元的认识を揺るがし、現代社会が抱える問題を提示してきた。他方、2014年からは、《Green chan Project》と題し、seoがキャラクターデザインをしたイラスト・イメージを立体造形し、架空の物語が浮かび上がるインスタレーションを展開している。愛らしいキャラクターの裏に、自然に対する真摯なメッセージを突き付ける。



⑮ 「Green Chan Project」 2014

展覧会関連イベント

音楽、ダンスが町に溢れる1日！

パフォーマンス・ラボ

滋賀で活躍するパフォーマーやゲストミュージシャンが町中を練り歩き、パフォーマンスを繰り広げます。

出演：大津ワークショップグループ（即興演奏）、
湖南ダンスカンパニー（ダンス）、有本羅人
（トランペット／バスクラリネット奏者）

ディレクター：吉田隆一（バリトンサクソ奏者）

日時：10月14日（月・祝）12：00～

会場：八幡堀周辺 各所

観覧料：無料

事業名：障害者表現活動の地域拠点づくりモデル
事業（滋賀県）

障害のある人と作品を体感する鑑賞会

視覚障害のある人、盲ろうの人、発達障害のある人たちと作品鑑賞を行うイベントを開催します。障害のあるなしに関係なく参加いただけます。

「みる・きく・さわる作品鑑賞会」

作品をみて、きいて、さわって、様々な感覚から作品の魅力を感じる鑑賞会です。

講師：広瀬浩二郎

（国立民族学博物館グローバル現象研究部准教授）

日時：11月16日（土）13：00～16：30

会場：ボードレス・アートミュージアムNO-MA他

定員：20名／要予約

参加費：無料

参加対象：目が見えない人、見えにくい人、耳が聞こえない人、聞こえにくい人、ともに鑑賞会を楽しみたい人

事業名：障害者芸術文化活動普及支援事業（滋賀県）

盲ろうの人と楽しむ芸術鑑賞会

盲ろうの人とともに「手で観る作品」を鑑賞します。鑑賞後は、身近な素材を使って作品を制作します。

ファシリテーター：NO-MA学芸員

日時：10月18日（金）13：00～15：00

集合：奥村家住宅

定員：30名／要予約

参加費：無料

参加対象：目が見えない人、見えにくい人、
耳が聞こえない人、聞こえにくい人、
ともに鑑賞会を楽しみたい人

発達障害の人と楽しむ芸術鑑賞会

参加者同士で作品を味わったり、気分によっては一人で作品世界に浸ったり、町が舞台の展覧会を巡る鑑賞会です。

ファシリテーター：NO-MA学芸員

日時：11月9日（土）13：30～15：30

会場：ボードレス・アートミュージアムNO-MA他

定員：20名／要予約

参加費：無料

参加対象：発達障害の人、
ともに芸術を楽しみたい人

「ちかくのたび」アーティストと一緒に創作体験

手でみるカタチの世界

全盲の作家である小原二三夫さんは、これまでに多くの彫刻を制作してこられました。小原さんから、視覚に頼らない世界を捉え、形づくる経験についてお話しいただき、公開制作をしていただいたあと、一緒に創作体験をします。

日時：10月5日（土）

1回目 13：00～14：30 2回目 15：00～16：30

講師：小原二三夫（本展出展者）

会場：まちや倶楽部（近江八幡市多賀町738-2）

定員：各回10名（要予約）

参加費：無料

ちかくのたび in 沖島

「ちょっと琵琶湖の島まで」

出展者の久保寛子さんと一緒に沖島へ渡り散策したあと、島ならではの魅力が詰まった作品をつくるアートツアー。

琵琶湖、沖島、アートで秋を満喫します。

日時：10月26日（土）13：40～17：45

講師：久保寛子（本展出展者）

集合/解散：JR近江八幡駅北口ロータリー

定員：10名（要予約）

参加費：乗船料（往復）1,000円

連携企画

「ちかくのたび」会場となる奥村家住宅では「美の糸ロ—アートにどぼん！2019」との連携企画を実施します。

その1 写真でドレミ♪

写真から音色が?画像の色から音楽を作ります。

その2 「わたしのカタチ」

自分の身体と身近なアイテムを被写体に日光写真を作ります。

日時：10月14日（月・祝）①11：15～ ②12：15～ ③13：30～ ④14：30～ ⑤15：30～

会場：奥村家住宅（近江八幡市永原町上8）

定員：1回につき10名（予約不要）

参加費：無料 参加対象：小学1年生から

主催：滋賀県、公益財団法人びわ湖芸術文化財団 共催：近江八幡市

ボーダレス・エリア近江八幡芸術祭「ちかくのたび」

広報用画像申込書

 社会福祉法人グロー 法人本部企画事業部
 (ボーダレス・アートミュージアムNO-MA) 広報宛

FAX : 0748-46-8228

本展覧会広報用素材として、作品画像を用意しております。

ご希望の際は下記申込用紙に必要事項をご記入の上、FAX又はメールにてお申し込みください。

なお、写真の使用に際し、以下の点をご確認ください。

- ① キャプションは、作家名、作品名、制作年、撮影者名を必ず表記ください。
- ② 作品のトリミング、文字載せはお控えください。
- ③ 本展記事をご紹介頂く場合には、恐れ入りますが情報確認の為に校正、掲載誌(紙)、DVD、CD等をお送りください。

媒体名：『

』

TV ラジオ 新聞 雑誌 フリーペーパー

種別： ネット媒体 携帯媒体 その他

発売・放送予定日：

御社名：

ご担当者名：

Eメールアドレス：

@

(〒 -)

ご住所：

お電話番号：

FAX：

ご希望の図版番号に✓をおつけください。

<input type="checkbox"/>	①芝田 貴子 「お母さん」 2015年 撮影者：大西暢夫
<input type="checkbox"/>	②酒井 美穂子 「サッポロ一番しょうゆ味」 1995年-
<input type="checkbox"/>	③脇原 大輔×DENKITOMBO 「五個荘影」 SCP2012
<input type="checkbox"/>	④小原 二三夫 「飛行機」 2018年
<input type="checkbox"/>	⑤久保 寛子 「やさしい手」 2018年
<input type="checkbox"/>	⑥佐々木 卓也 「外国の女性(ゆみかちゃん)」 2001年
<input type="checkbox"/>	⑦米田 文 「うずまきさん」 2001年 撮影者：大西暢夫
<input type="checkbox"/>	⑧橘高 博枝 「無題」 制作年不詳
<input type="checkbox"/>	⑨五則野わらじ 「時の取れ方」 2010年
<input type="checkbox"/>	⑩清野 ミナ 「カラフルメイト」 2009年
<input type="checkbox"/>	⑪平野 智之 「New 美保さんシリーズⅧ」 2018年
<input type="checkbox"/>	⑫矢澤 紗和子×藤野 可織 「無名」 2015年 撮影者：賀集東悟
<input type="checkbox"/>	⑬藤岡 祐機 「無題」 2019年 撮影者：大西暢夫
<input type="checkbox"/>	⑭瀬尾 ひろみ 「どうぶつえん」 2009年
<input type="checkbox"/>	⑮藤田 マサヒロ×seo 「Green Chan Project」 2014年

【問い合わせ / 掲載用写真貸出・取材】

社会福祉法人グロー 法人本部企画事業部 (ボーダレス・アートミュージアムNO-MA)

担当：山田・山口 〒521-1311 滋賀県近江八幡市安土町下豊浦 4837 番地の 2

TEL : 0748-46-8100 FAX : 0748-46-8228 MAIL : kikaku@glow.or.jp